【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第２区分
【発行日】平成21年9月3日(2009.9.3)

【公表番号】特表2004-509366(P2004-509366A)
【公表日】平成16年3月25日(2004.3.25)
【年通号数】公開・登録公報2004-012
【出願番号】特願2002-527492(P2002-527492)
【国際特許分類】
Ｇ１０Ｌ　19/04　(2006.01)
Ｇ１０Ｌ　19/08　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ１０Ｌ　9/14　Ｊ
Ｇ１０Ｌ　9/14　Ｇ

【誤訳訂正書】
【提出日】平成21年7月15日(2009.7.15)
【誤訳訂正１】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００５２
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００５２】
該マルチモード操作は、閉ループ態様で、または開ループ方法で制御することができる。閉ループ方法は、各モードについての残差符号化エラーに応じてモードを判断する。これは計算上、コストのかかる方法である。開ループ方法では、符号化モードは入力信号特性に基づいて決定される。チャネル内の場合は、参考文献４に記載されたように、可変レートモードは、例えば、音声、スペクトル特性及び信号エネルギーに基づいて決定される。チャネル間モードを決定する場合には、チャネル間相互相関関数またはスペクトル距離関数を使用することにより決定される。ノイズまたは無声符号化の場合には、周波数ドメインにおける複数チャネル相関特性を使用することがより適切である。開ループと閉ループ技術の組み合わせも可能である。開ループ分析は、複数の候補モードに基づいて決定され、符号化され、そして閉ループ決定時に最終残差エラーが使用される。
【誤訳訂正２】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】特許請求の範囲
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】　チャネル間相関を検出するステップと；該検出されたチャネル間相関に基づいて符号化モードを選択するステップと；該選択された符号化モードに基づいて、チャネル特定固定コードブックと共有固定コードブックの間に適応的にビットを分配するステップを含み、チャネル間相関が高い符号化モードでは、より多いビットが共有固定コードブックに、より少ないビットが個別固定コードブックに割り振られ、チャネル間相関が低い符号化モードでは、より少ないビットが共有固定コードブックに、より多いビットが個別固定コードブックに割り振られる、複数チャネル線形予測合成分析信号符号化方法。
【請求項２】　前記選択可能な符号化モードが、全体的なビットレートがフレームベースで固定であることを特徴とする、請求項１に記載の方法。
【請求項３】　前記選択可能な符号化モードが、全体的なビットレートがフレームベースで変化するものを含むことを特徴とする、請求項１に記載の方法。

【請求項４】　チャネル間相関をタイムドメインで判断することを特徴とする、請求項１ないし３のいずれか１項に記載の方法。
【請求項５】　チャネル間相関を周波数ドメインで判断することを特徴とする、請求項１ないし４のいずれか１項に記載の方法。
【請求項６】　チャネル間相関が低い場合には、チャネル特定ＬＰＣフィルタを使用することと；チャネル間相関が高い場合には、共有ＬＰＣフィルタを使用することを特徴とする、請求項１ないし５のいずれか１項に記載の方法。
【請求項７】　チャネル間相関が低い場合には、チャネル特定固定コードブックを使用することと；チャネル間相関が高い場合には、共有固定コードブックを使用することを特徴とする、請求項１ないし６のいずれか１項に記載の方法。
【請求項８】　チャネル間相関が低い場合には、チャネル特定適応コードブックによる量子化と、ピッチ遅延処理を行うことと；チャネル間相関が高い場合には、共有適応コードブックによる量子化と、ピッチ遅延処理を行うことを特徴とする、請求項１ないし７のいずれか１項に記載の方法。
【請求項９】　チャネル間適応コードブックによる量子化と、ピッチ遅延処理を行うことを特徴とする、請求項１ないし８のいずれか１項に記載の方法。
【請求項１０】　チャネル間相関が低い場合には、それぞれのチャネルの相対的チャネル強さに従って残差エネルギーの重み付けをする、すなわち、強いチャネルの残差エネルギーは大きく、弱いチャネルの残差エネルギーは小さくすることを特徴とする、請求項１ないし９のいずれか１項に記載の方法。
【請求項１１】　音声分類に基づいて、個別の固定コードブックのサイズを判断する、すなわち、一つのタイプの音声が他のタイプの音声より小さな個別の固定コードブックに関連付けられることを特徴とする、請求項７ないし１０のいずれか１項に記載の方法。
【請求項１２】　チャネル間相関を検出する手段（４０）と；該検出されたチャネル間相関に基づいて符号化モードを選択するための手段（４０）と；該選択された符号化モードに基づいて、チャネル特定固定コードブックと共有固定コードブックの間に適応的にビットを分配する手段が、チャネル間相関が高い符号化モードでは、より多いビットが共有固定コードブックに、より少ないビットが個別固定コードブックに割り振られ、チャネル間相関が低い符号化モードでは、より少ないビットが共有固定コードブックに、より多いビットが個別固定コードブックに割り振られる手段（４０）を含む、複数チャネル線形予測合成分析信号符号器。
【請求項１３】　チャネル間相関をタイムドメインで判断するための手段を特徴とする、請求項１２に記載の符号器。
【請求項１４】　チャネル間相関を周波数ドメインで判断するための手段を特徴とする、請求項１２または１３に記載の符号器。
【請求項１５】　チャネル間相関が低い場合には、チャネル特定ＬＰＣフィルタが；チャネル間相関が高い場合には、共有ＬＰＣフィルタが使用されることを特徴とする、請求項１２ないし１４のいずれか１項に記載の符号器。
【請求項１６】　チャネル間相関が低い場合には、チャネル特定固定コードブックが；チャネル間相関が高い場合には、共有固定コードブックが使用されることを特徴とする、請求項１２ないし１５のいずれか１項に記載の符号器。
【請求項１７】　チャネル間相関が低い場合には、チャネル特定適応コードブックによる量子化と、ピッチ遅延処理を；チャネル間相関が高い場合には、共有適応コードブックによる量子化と、ピッチ遅延処理を行うことを特徴とする、請求項１２ないし１６のいずれか１項に記載の符号器。
【請求項１８】　チャネル間適応コードブックによる量子化と、ピッチ遅延処理を行うことを特徴とする、請求項１２ないし１７のいずれか１項に記載の符号器。
【請求項１９】　チャネル間相関が低い場合には、それぞれのチャネルの相対的チャネル強さに従って残差エネルギーの重み付けをする、すなわち、強いチャネルの残差エネルギーは大きく、弱いチャネルの残差エネルギーは小さくするための手段（４２，ｅ１，ｅ

２）を特徴とする、請求項１２ないし１８のいずれか１項に記載の符号器。

【請求項２０】　音声分類に基づいて、個別の固定コードブックのサイズを判断する、すなわち、一つのタイプの音声が他のタイプの音声より小さな個別の固定コードブックに関連付けられる手段（４０）を特徴とする、請求項１６ないし１９のいずれか１項に記載の符号器。

【請求項２１】　チャネル間相関を検出する手段（４０）と；該検出されたチャネル間相関に基づいて符号化モードを選択するための手段（４０）と；該選択された符号化モードに基づいて、チャネル特定固定コードブックと共有固定コードブックの間に適応的にビットを分配する手段が、チャネル間相関が高い符号化モードでは、より多いビットが共有固定コードブックに、より少ないビットが個別固定コードブックに割り振られ、チャネル間相関が低い符号化モードでは、より少ないビットが共有固定コードブックに、より多いビットが個別固定コードブックに割り振られる手段（４０）を含む、複数チャネル線形予測合成分析信号符号器を含む端末。

【請求項２２】　チャネル間相関をタイムドメインで判断するための手段を特徴とする、請求項２１に記載の端末。

【請求項２３】　チャネル間相関を周波数ドメインで判断するための手段を特徴とする、請求項２１または２２に記載の端末。

【請求項２４】　チャネル間相関が低い場合には、チャネル特定固定コードブックが；チャネル間相関が高い場合には、共有固定コードブックが使用されることを特徴とする、請求項２１ないし２３のいずれか１項に記載の端末。